

保護者等向け 放課後等デイサービス評価表

公表日：令和8年1月31日

事業所名：放課後等デイサービス coco虹		対象人数（保護者） 35人 回答者数 26人 回収 74.3%					
		チェック項目	はい	いいえ	わからない	ご意見を踏まえた対応	
環境・体制整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	○			運営の基準は満たしています。活動や人数によっては3部屋を使いながら分散し、安全面への留意や活動内容に適した環境を整え過ごしています。	
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	○			運営基準よりも多い配置数で日々支援をおこなっています。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	○			部屋の名前や何をする場所なのかは決めており、周知しています。お子様によっては視覚的な個別ボードやカードを用いながら支援しています。玄関の段差以外はバリアフリーで手すりもついています。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	○			毎日の掃除と消毒はコロナ後も継続しています。活動中に汚れた場合も都度掃除をしています。下校時刻の差で過ごし方が変わります。状況に応じて部屋を分けながら過ごしています。	
適切な支援の提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	○			家庭との連携、職員間での情報共有をしながら支援の内容や方向性を統一するよう心掛けています。	
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	○			体験活動ほか、身辺の自立と集団活動の基礎、身体作り(感覚統合)を遊びの中に取り入れています。	
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	○			家庭での様子や職員間での意見交換をしながら作成しています。	
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	○			移行支援については必要に応じて他の事業所を紹介、連携をおこなっております。また進級時や進学時には情報提供やかけはしの記入もしています。	
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	○			職員間で理解を統一しながら支援計画に沿って支援をおこなうようにしています。	
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	○			体験活動の内容を変更したり、季節の事象や道具を取り入れたりしながら楽しめるような内容を考えています。クッキングでは日本地図を覚えていくためご当地クッキングを始め工夫しています。	
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	○			田植え、稲刈り体験やマルシェのお客さんで兄弟児参加可能とし、いろいろな年齢層のお子様と関わりが持てるよう機会を設けています。田植え、稲刈りイベントの時に地域枠を設けましたが参加はありませんでした。	
	保護者への説明等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	○			見学や契約の時にお話をさせていただいています。
		13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	○			引き続きお子様の姿を交えながら計画書の説明も丁寧にしていきたいと思います。
		14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	○			昨年は発達障害児の思春期に関する保護者向け研修会開催、親子イベントで情報交換や相談など交流の場を設けました。ペアレントトレーニングという名で家族支援はおこなっておらず、個別で情報提供やご相談をお受けしています。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	○			保護者の方からお聞きした事や支援中のことなど情報共有、共通理解に努めています。	
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	○			支援計画の見直しの際やお困り事があった際は面談等の場を設けています。	
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	○			お子様、保護者の方の思いを大切に必要な支援を検討しています。	
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	○			兄弟参加可能な田植え、稲刈り、クリスマス会や餅つきイベントを開催しています。親子イベントの時に情報交換や相談など交流の場を設けています。	
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	○			ご相談等お受けした際はすぐに対応できるよう職員体制を整え時間を確保しています。必要であれば相談支援員さんにも連絡を取り適切な対応に努めています。	
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	○			HUGシステムや玄関掲示の他、coco虹では会話を大切にしています。	
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	○			玄関掲示でイベントの報告やInstagramの投稿、HUGシステムによる情報公開で必要な情報を発信しています。	
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	○			SNS投稿や守秘義務は十分気をつけています	
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	○			各種マニュアルは完備しており、訓練も定期的におこなっています。	
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	○			定期的な訓練はしていますが、全員参加での訓練はおこなっていません。多くの方が経験できるよう回数を増やすなど工夫していきたいと思います。	
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	○			緊急事態に備えた避難等の計画や送迎車、課外学習での決まり事、駐車場で遊ぶ際の約束事などは職員間、子どもたちにも周知して支援をおこなっています。	
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	○			怪我等起こらないよう環境づくりや職員配置に気を付けています。車場で遊ぶときはロープをはり、飛び出し防止も気を付けています。	
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	○			職員との信頼関係のもと、安心した雰囲気のかか過ごせるよう今後も取り組みます。	
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	○			好きな遊びを取り入れながら楽しみをもって通っていただけるよう努めてまいります。	
	29	事業所の支援に満足していますか。	○			支援内容や支援力、運営等満足いただけるような施設づくりを職員全員で取り組んでいます。	

※1「本人にわかりやすく構造化された環境」とは、こども本人がこの部屋で何をするのがわかりやすいよう、机や本棚の配置などを工夫することです。

※2「支援プログラム」とは、事業所における総合的な支援の推進と事業所が提供する支援の見える化を図るため、事業所で行われている取組等について示し、公表することが求められています。

※3「放課後等デイサービス計画（個別支援計画）」は、放課後等デイサービスを利用する個々のこどもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援方針や支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のことです。これは、放課後等デイサービス事業所の児童発達支援管理責任者が作成し、保護者等への説明を行うとともに同意を得ることが義務付けられているものです。

※4「活動プログラム」は、事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のことです。こどもの発達の状況や障害の特性等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されています。

※5「ペアレント・トレーニング」は、保護者がこどもの障害の特性やその特性を踏まえたこどもへの関わり方を学ぶことにより、こどもの行動変容することを目標とします。